

ケニアのチャイナタウン ——二つのチャイナタウンとその壁

金 重李

欧米系の華人コミュニティでは、「波が届くところには必ず華人がいる」(There are Chinese people wherever the ocean waves touch) という言葉がよく使われる。アフリカもその例外ではない。私はアフリカのケニアで華僑華人の世界に出会った。

2024 年の夏、指導教員が研究代表者を務める科研プロジェクトの一環として実施されたケニア調査に、研究協力者として帯同した。初めてのケニア渡航で、新鮮な気持ちに満ちたされながら空港に着陸し、事前に手配していた運転手に迎えに来てもらった。運転手の車で空港からナイロビ CBD にあるホテルまで移動する途中、よく新聞などの記事で話題になり議論されている中国企業がケニアで建設した高速道路が目に入った。そのような経済的・政治的活動が具体的にケニアにどのような影響を及ぼしているのか、私はその高速道路を走る車を眺めながら考え始めた (写真 1)。



写真1 ナイロビ高速道路ゲート (2024 年 8 月 14 日、筆者撮影)

ケニア到着の 2 日目、換金と電話用の SIM カードの手続きを済ませた後、早速念願のチャイナタウンへ向かった。チャイナタウンはホテルからそれほど遠くなく、Uber タクシーで道路が混んでいなければ 10 分ほどで到着できる。チャイナタウンに近づく途中、中国語で書かれた看板が見え始め、「肯中大院」と書かれた入口も目に入った。中国語でケニアを「肯尼亜」と表記することから、「肯中」はケニアと中国を同時に表現する略語とわかる。「大院」はレストランなどを備えた集合住宅の庭を意味する、ここも中華系エリアの一つだろう。

目的地のチャイナタウンに着くと、まず「中華街」と漢字で書かれた出入り口が目の前に現れた。ケニア人の警備員が手動で遮断機を操作しており、運転手のケニア人が車を壁の中に乗り入れる際、警備員と少し合図を交わしたようだった。中華街は一階建てほどの高さがある壁で囲まれたエリアで、その内部は想像よりも狭く、日本の中華街と比べると壁の存在が開放感を欠く印象を与えた。中には主に飲食店が並び、酒屋やスーパーも見られた。飲食店では中国の有名な料理がメインとなっており、到着したのが午前 10 時半前後だったため、朝食向けの中華まんや麺類のお店が開いていたが、ランチやディナー、夜食向けの BBQ や火鍋店はまだ営業していなかった。営業中の店舗やスーパーに入ると、アフリカ人とアジア人の顔が入り混じっているのが目に入った。ある店長の話によると、中国人以外にも日本やシンガポールの人々がよく訪れるという（写真 2、3、4）。



写真 2 中華街の入り口（2024 年 8 月 12 日、筆者撮影）



写真 3 中華街の壁(外回り)（2024 年 8 月 12 日、筆者撮影）



写真 4 中華街の壁の中(2 階から眺め) (2024 年 8 月 12 日、筆者撮影)

少し歩くと、もう一つの出入り口に着いた。同じく「中華街」と書かれた門があり、ケニア人の警備員が立っていた。そこから外に出て壁の外から「中華街」を眺めてみると、すぐ隣に「唐人街」と書かれた門が現れた。同じく手動式の遮断機がケニア人によって操作されていたが、警備員の服装は「中華街」が全身黒の制服姿だったのに対し、「唐人街」の警備員は軍服のような姿をしていた。興味を持って中に入ると、「唐人街」の規模はやや小さく、飲食店やスーパー、売店があった。なぜチャイナタウンに「中華街」と「唐人街」という二つの名前があるのかをある店の人に尋ねると、それぞれ異なるオーナーがいるためだと教えてもらった(写真 5、6)。

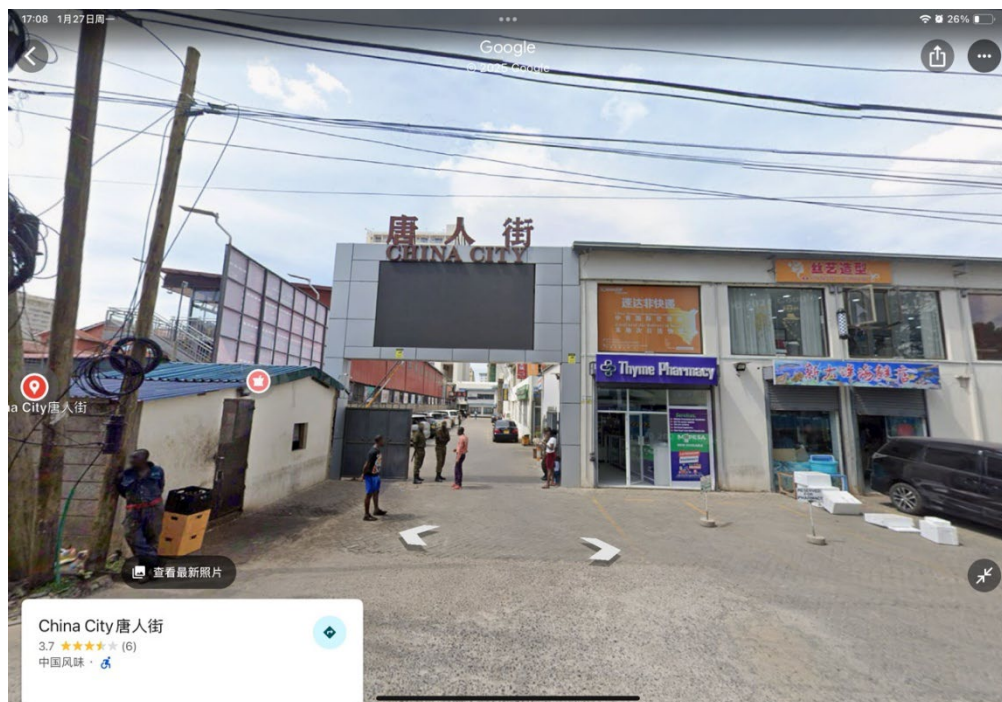


写真 5 唐人街の入り口（Google マップ、2025 年 1 月 27 日閲覧）



写真 6 唐人街の中（2024 年 8 月 12 日、筆者撮影）

チャイナタウンの外にも少し歩き、1 キロ以内の範囲で北と東の方向に足を延ばした。周辺にはカジノや高級ホテルが建ち並び、現地のスーパーや商店街も見られた。現地で聞いた話によると、この周辺の建物は中華系の店舗名が付いていなくても、中国の建設会社によって建てられたものだという。それを聞いて、ケニア・ナイロビの街がどこか馴染みのある場所のように感じられてきた。目に見えるチャイナタウンの壁を越えても、目に見えないチャイナタウンの存在を感じ、それもまたどこか目に見えない壁によって他の世界と隔てられているように思えた（図1）。

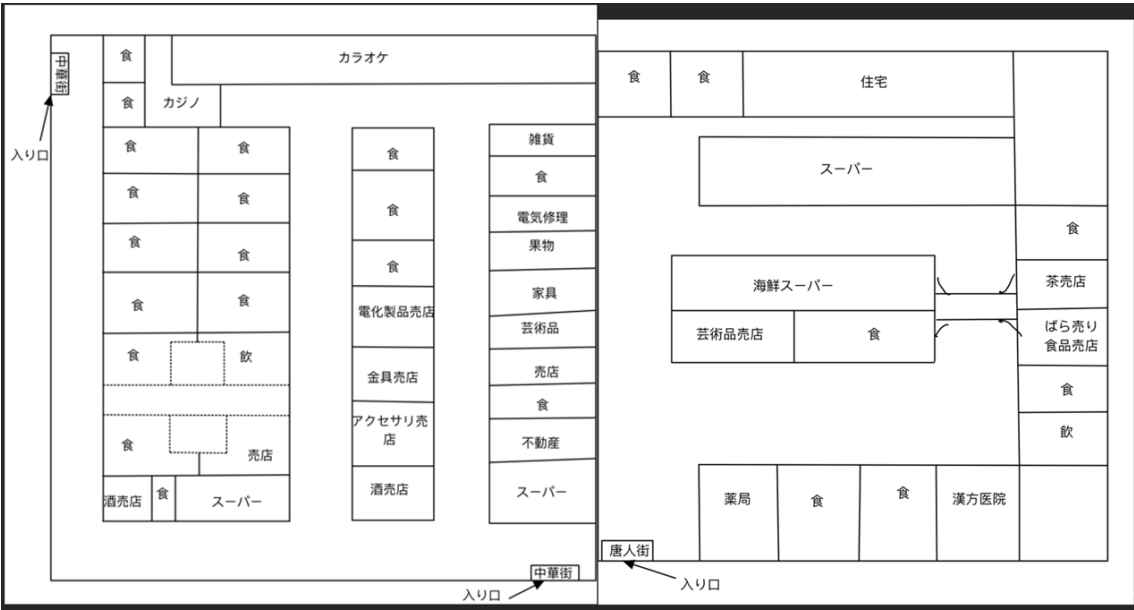


図1 中華街と唐人街の店舗配置図(1F)（筆者作成）

謝辞：本研究は JSPS 科研費 24K00187（代表：石田慎一郎）の助成を受けたものです。

（じん・じゅうり 東京都立大学大学院）